

a 学校教育目標	豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成 ～自立・尊重・向上～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	---	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	主体的な学びを促す授業づくり	基礎学力の定着	○定期試験ごとの「テスト直し」の実施しと、レポートやドキュメントによる可視化。	①標準学力調査「活用問題」の正答率における校内平均と全国平均との比率	1 (100%)以上	① 1年0.95 2年0.89 3年0.90	② (実力テスト) 1年0.97 2年0.90 3年0.88	92%	①B ②B	・実力テストにおける5教科平均が、校内平均と全国平均との比率が1以下(全学年) ・実力テスト、定期試験等の結果の分析と今後の取り組みを各教科で共有している。	・モジュール学習で全生徒が毎日ミラシード取り組み時間を確保することで、chromebookの活用と学力向上を目指す取組を今年度引き続き実施する。 ・研究授業を各教科で行い、全教職員での協議・共有できるものを作成し保存しておく。 ・第GOノートを活用するとともに各教科で課題を与えていくことで、家庭学習の量(時間の増)・質(思考力・判断力・表現力等を使った活用問題)の充実を目指す。 ・実力テストの分析結果を踏まえ、類似問題を試験で実施するなど継続的に取り組みを進めていく。 ・クラスを習熟度別に分け、単元テストや小テストなどを複数回実施で繰り返し行う取組。(数学)	○			・中学生が今後の人生を歩んでいくうえで基礎学力の定着は何より大切なことです。ぜひ、目標達成のため教職員全員で尽力してほしいと思います。 ・本年度の評価表、活動内容は具体的です。また、改善方法も確定的です。
			○「本質的な問い」や「教科の特性を意識した振り返り活動」を取入れた単元構成・単元開発	②実力テスト等における校内平均と全国平均との比率	③一人一授業提案	1回以上	② 3年実テ 0.87	③ 3年実テ 0.87	100%	100%	100%	A	・1人1授業提案は年度当初実施日を割り振り、計画通り実施した。		
確かな学力の育成	学力向上を意識した授業改善	学力向上を意図した授業改善	○教科ごとの「PDCAサイクルシート」を活用した授業改善	④生徒、教職員アンケートの「振り返り」に関する設問の肯定的回答率	80%	④生徒 ・授業85% ・テスト 92.8%	④教職員 ・授業&テスト100%	④100%	④A	④ ・教職員は全学年、全教科で定期試験後のテスト直し(誤答処理)レポートなどで振り返り活動を仕組んでいる。実施率100%→100% ・生徒アンケートより、定期試験後にテスト直し(誤答処理)レポートなど振り返りを行っている。肯定的評価 92.8%→87.0%	・授業の振り返りと定期テストの振り返りがリンクしていくような仕組み作りを行い取り組むことで、一定の成果をあげることができた。また、来年度は総合的な学習の時間を活用して、PBL(プロジェクト型学習)に取り組んでいきたい。さらに、1学期のテスト直し(誤答処理)レポートの実施方法や評価基準について交流研修を行い、他教科の実践の良いところを2・3学期のレポート指導に反映させることができた。	○			・学力向上の取組、生徒指導の取組をきめ細やかに実践され、生徒の自己肯定感の向上につながっており、大変参考になりました。今後とも小中連携しながら、児童・生徒の育成に尽力していきたいと思いました。
			○家庭学習の充実による基礎学力の向上(各教科・各学年)	⑤毎日家庭学習を行う生徒の割合	⑤ ・生徒82%	⑤ ・生徒80.5%	⑤100%	⑤A	⑤ ・毎日家庭学習に取り組んでいる生徒は82%→80.5%であり、保護者の肯定的評価は70.6%→55.6%であった。また、毎日課題を設定して自主学習に取り組んでいる生徒の割合は62.4%→61.0%となった。 ・家庭学習時間30分以上(塾・宿題等を含まない)の生徒は58.3%→51.4%であり、家庭学習時間30分以上(塾・宿題等を含む)の生徒は84.2%→74.4%であった。	⑤ ・生徒82%	⑤100%	⑤A	・生徒の家庭学習への取り組みを可視化し、保護者に通信等で還元し、家庭学習の意識を高める。 ・30分未満の生徒への取組強化を行う。(細やかな家庭との連携・学力向上部との連携)	○	
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	生徒会活動の充実	○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価	⑥「自分には良いところがあります」に対する肯定的な回答率	80%	⑥生徒 肯定的評価 78.2%	⑥生徒 肯定的評価 80.6%	⑥98%	⑥A	⑥ ・定期的に学年集会、全校朝会を行い、全体の前で生徒が発言する機会を作ることができた。 ・第GOノートの内容紹介など生徒の努力を紹介することができた。	⑥ ・生徒の努力の成果を掲示物を通して紹介し、主体的に取り組む意欲を今後も高めていく。 ・学校行事やクラス行事など役割を与え、活躍する場を意図的に作る。	○			・各教科でクロームブックの活用が定着しており、学力向上につながっているものと思われました。生徒一人ひとりが目標をもって学校生活を充実させること、先生方また学校がセットになってよい教育環境が育まれています。 ・時代の変化とともに精神的に弱い生徒が多くなっているように思います。様々な経験を積ませ、失敗から学ぶことが大切なことと思います。その意味でも何事にも積極的に取り組むための学校行事を創造していただきたいと思っています。
			○集会活動の定例開催と内容の充実	⑦生徒アンケートにおける「主体的な地域活動への参加」についての肯定的回答率	⑦生徒 肯定的評価 57.9%	⑦生徒 肯定的評価 50.9%	⑦63%	⑦C	⑦ ・学校全体で地域貢献の取り組みを検討している。新生徒会を中心に、新年度に向けて準備していきたい。	⑦ ・地域行事の情報を積極的に発信し、活動へ参加しやすい環境を作っていく。生徒会執行部と連携し、地域貢献活動を取り入れていく。	○				
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善	○個別の指導計画の作成と組織的な取組推進	⑧生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」についての肯定的評価	90%	⑧生徒 肯定的評価 1年生 92.5 2年生 89.7 3年生 93.8 全体 92		⑧100%	⑧A	⑧ ・文化祭などの学校行事、部活動や生徒会活動に取り組む中で、自己肯定感を高めることができた。 ・テスト週間に担任による教育相談を実施し、生徒理解を深めようとする取り組みができた。教職員間の情報共有がスムーズにできるようになり、生徒に対する支援がきめ細やかにできるようになった。 ・スクールカウンセラーや校内ふれあい教室と連携し、長期欠席・不登校生徒への対応を強化することができた。	・授業改善や学校行事の充実、班活動やペア活動など共感的人間関係づくりを強化し、他者を通じた自己肯定感を高める取り組みを今後も実践していく。 ・スクールカウンセラーや校内ふれあい教室、三原市の関係機関と連携し、教職員が生徒理解を深められるよう継続して取り組んでいく。生徒理解の重要性を再認識できるよう教職員への研修を行っていきたい。	○			
			○長期欠席・不登校生徒数の増加への対応、取組強化	⑨見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項、学期に2つ以上	⑨事項の数 ⑩教職員アンケート	⑨2つ ⑩肯定的評価 83.3%	⑨A ⑩A	⑨ ・放課後の研修を、水曜日のかたまり時間に集中したり、授業時間の中に組み込むなど、生徒と向き合う時間を確保できた。 ・欠席者へのこまめな連絡や保護者への周知漏れを防ぐため、すぐる機能を活用する教職員が増えた。	⑨ ・引き続き、会議の効率化や合理的な報告・連絡・相談を工夫して、生徒と向き合う時間や授業改善の時間を生み出していく。 ・保護者連絡はすぐると電話連絡をバランスよく行い、効果的に活用する。 ・生徒指導上における連絡もすぐるを積極的に活用する教職員が増えている。	○					
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	長時間勤務の縮減	○上限の目安時間を超えない時間管理の徹底(月45h)	⑪時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合	90%	⑪時間外勤務6か月の平均 月45時間以内 19人(83%)		92%	⑪A	⑪ ・時間外勤務45時間以上を超えた教職員割合 10月30%(7人)、11月17%(4人)、12月17%(4人)、1月8%(2人) ・8月～1月の6か月の月45時間以上平均3.8人(16%) ・時間外勤務の割合は減った。 ・自分で残業時間の自己管理をするなど、各個人の意識を高める必要がある。	・仕事の優先順位などをつけながら、時間外勤務が当たり前ではない風土を醸成していく。 ・仕事の手法や工夫等の若手指導を行う必要がある。 ・それぞれのライフワークバランスに沿った年次有給休暇の取得を積極的に推進をする。(例えば平日の時間単位取得や休業中の連続取得など)	○			・豊かな教育推進のためには、教職員の人生のゆとりが必要である。そのような意味で「働き方改革」も積極的に推進していただきたいと思っています。 ・授業がとて落ち着いて学習に取り組む生徒の姿に接し、日ごろの先生方の指導のたまものと感謝です。先生方がプライドを持って動いておられるように感じました。

【j : 自己評価 評価】
A : 100≦(目標達成) C : 60≦(もう少し) < 80
B : 80≦(ほぼ達成) < 100 D : (できていない) < 60

【l : 学校関係者評価 評価】
イ : 自己評価は適正である。
ロ : 自己評価は適正でない。ハ : わからない。